

平成14年度少年水産教室

城 間 一 仁

1. 目的

義務教育課程にある児童生徒を対象に、水産に関する基礎知識の習得と、伝統ある具志頭村の水産業を学習することによって、少年の水産業に関する理解を深めさせるために実施する。今回は、親子体験学習を通して具志頭村港川漁協で主に行われているパヤオ漁やソデイカ漁業についてビデオや実際に実施している漁業者に紹介してもらうとともに、漁獲されたマグロの解体と魚食をとおして地域の重要産業としての理解を深めさせる。

2. 教室名

地域の水産業を学ぶ

3. 実施対象

具志頭小学校（2年生83名）、同父母（70名）
計153名

4. 開催日程

平成14年10月31日（木）

5. 実施場所

港川漁協セリ市場、2階会議室

6. 講師

上原清秀指導漁業士

7. 協力機関

港川漁業協同組合

8. 実施内容

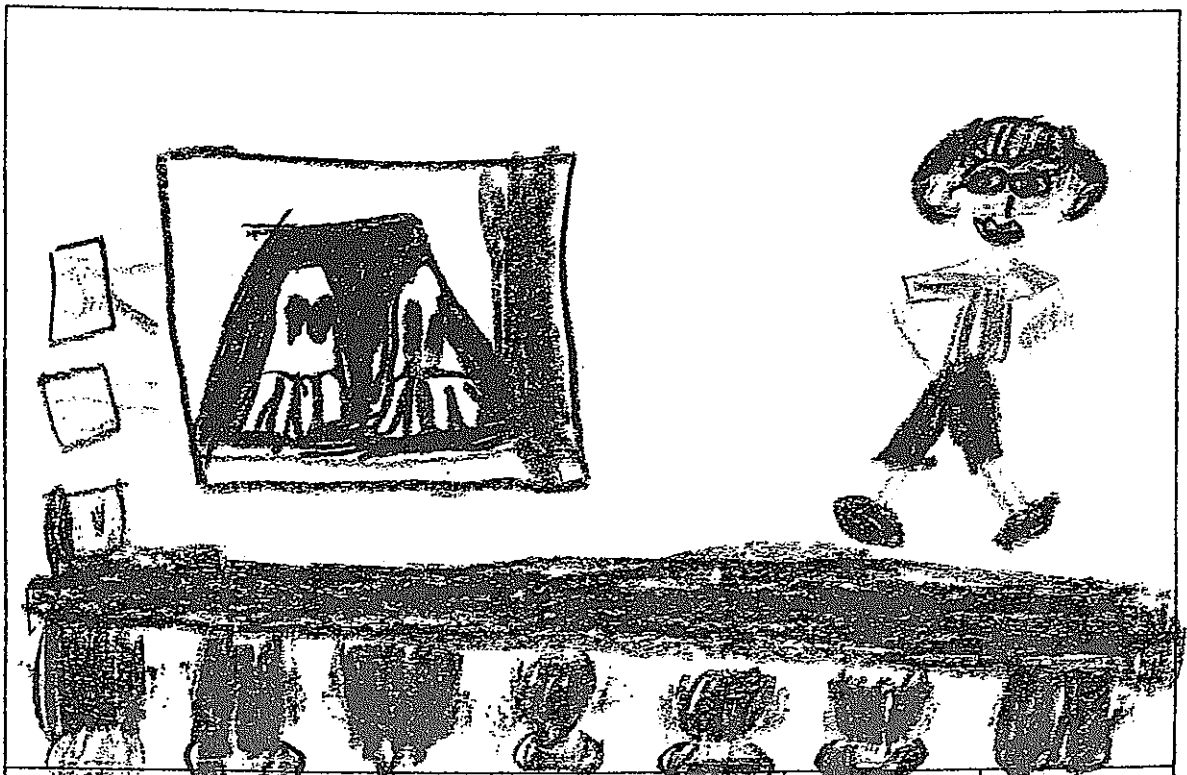
午前9時より港川漁港セリ市場横にて開校式を行った。瀬底センター長の開校の挨拶に始ま

り、港川漁協玉城組合長の激励の挨拶、少年水産教室開催スケジュール・資料等紹介の後、マグロの解体を行った。マグロは同教室に参加している児童生徒の父親（漁業者）が釣ってきた46kgのものを使用し、漁協職員が解体しているそばで樋岡参事が説明を行った。この後、2階の会議室に場所を移動し、勉強会を行った。勉強会では、城間普及員によるパヤオの概況紹介、ソデイカ漁についてのビデオ鑑賞（上原指導漁業士出演）、上原清秀指導漁業士によるパヤオ漁業・ソデイカ漁についての説明の後、児童生徒による質問へと移った。小学2年生らしい海に関する基本的な質問が数多くあり、それを受けて水産試験場系満場長より話を伺った。その後、解体したマグロの刺身とカマ焼きを試食し、担任の金城先生より感想を伺い、瀬底センター長の閉会の挨拶で同教室を閉会した。

同教室終了後、児童生徒による感想文が提出された。

9. 所感

今回の少年水産教室は、親子体験学習と組み合わせた小学2年生を対象としていたため、パヤオ漁業・ソデイカ漁について理解してもらうのに苦労したが、ビデオやOHPを多用したり、マグロの解体や試食などを通して地域で行われている漁業について理解し、興味を持ってもらえたと思う。



だ い み な と 川 き。こ う

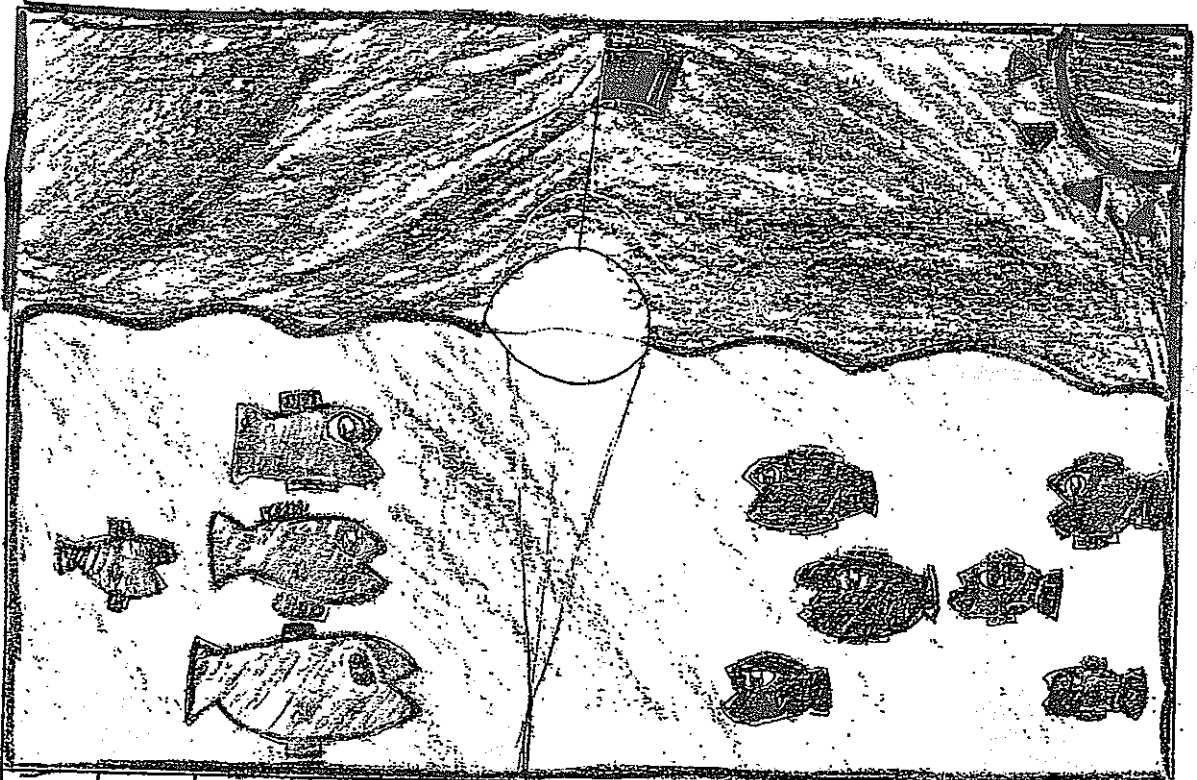
二 年 三 く み な ま え よ な は せ り な

わ た し が は じ め て 知 っ た こ と は、

小 さ な 魚 が き て 大 き い 魚 が 食
べ に く る の を つ か ま え る

こ と を、わ た し は、は じ め て 知
り ま し た。

お べ ん き。う に な。た こ と は
ま ぐ ろ を さ ば く と き み な
と 川 の 人 が 大 き い 魚 は よ だ
れ で け が を な お す と 言 っ た
ま し た。お べ ん き。う に な り ま
し た。



だ いみねとがわぎつこつ

二年ニくみ なまえうえさど、かなこ。

わたしは、あやしゅう会で、お母さんといっ
しよにいきました。

わたしは、一つもしつもんは、できなかりたけれ

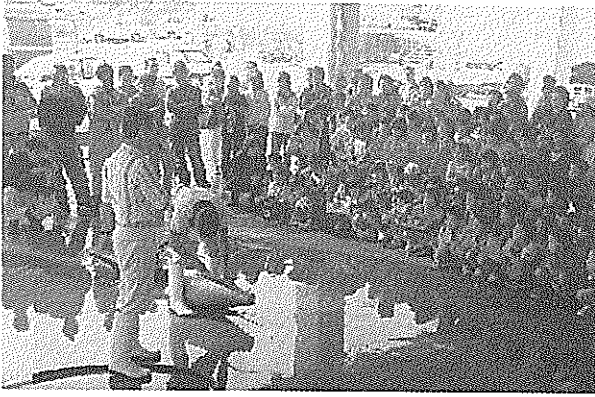
ど、ほかの人がしつもんした たけでちよつと

わかりました。

りゅうしさんやいろんなんに、魚の色なことを

あ話ししてくれました。わたしがあからなかつた

パヤオというものもさしえてくれました。



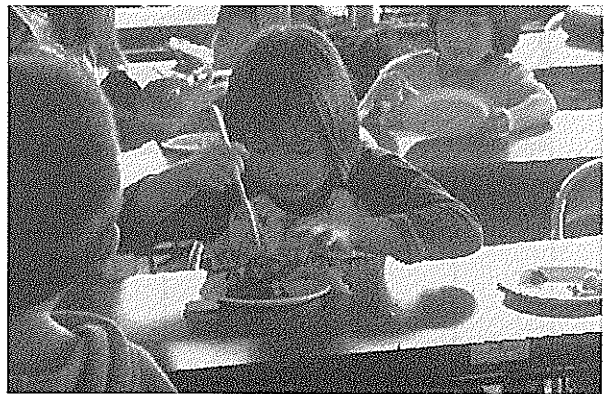
マグロを解体する漁協職員とそれを見つめる
150余名の教室参加者



「魚と人間の力はどっちが強いの？」



パヤオ漁業・ソデイカ漁について講義する上原
指導漁業士



おいしそうにマグロのカマ焼きをほおぼる児童
生徒